



JSQC ニュース

No.327

発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1 トピックス 今年も11月に品質月間が!!
- 2 私の提言 理論的アプローチを大切に(証明しましょう!)
- 2-ルポルタージュ 第363回事業所見学会ルポ
- 3-ルポルタージュ 第116回中部講演会ルポ/第364回事業所見学会ルポ
- 4-5・6月の入会者紹介/行事案内/事務局からのお知らせ/会費請求/総会告知

今年も11月に品質月間が!!

広報委員会 委員長 大藤 正

品質管理活動は確実に品質を保証するために、企業にとって欠くことのできない活動である。その対象が製品であれ、サービスであれ、知識であれ、情報であれ、システムであれ、プログラムであれ、提供する財の価値を保証する必要がある。

○品質管理に関連する社会活動

この提供財の価値を保証するための品質管理活動は地道な活動であり、今年で第54回目を迎える品質月間が今年も再来月の11月1日から30日の間に「価値ある品質で 新たな成長を!」をテーマに様々な活動が展開される。日常の品質管理活動としては、全国的な規模で各地において実施されているQCサークル活動の発表大会を始め、QC検定や各種品質管理講習会があるが、来月の10月には7地区で開催される「標準化と品質管理地区大会2013」とあわせて「標準化と品質管理全国大会2013」が工業標準化推進月間に都市センターホテルで開催される。そして、11月の品質月間には「クオリティフォーラム 2013」が日本教育会館で開催される。

標準化と品質管理全国大会2013は、10月3日、4日の2日間、「日本再生と新たな価値の創造—ジャパנקオリティで飛躍と成長—」をテーマに開催され、2件の特別講演と、「品質」「標準化」「リスク (安全・安心)」「ひとつづくり」

「グローバル対応」の5カテゴリーに分かれて5会場で20の講演がなされる。詳細については日本規格協会のWebサイトに掲載されている。

クオリティフォーラム2013は、11月28日、29日の2日間、「価値ある品質で新たな成長を!~日本品質にさらなる磨きをかけて!~」をテーマに開催され、企画Session講演と一般事例発表、日本品質奨励賞受賞報告講演会が予定されている。プログラムの詳細については、日本科学技術連盟のWebサイトに掲載される。

○維持と改善

Kaizenを提唱した今井正明氏は、「カイゼン (増補改訂版)」を2010年に上梓したが、維持活動と改善活動の両者を繰り返すことの重要性を説いている。管理のサイクルであるPDCAは、維持管理活動としてのSDCAのサイクルから始められ、改善管理活動であるPDCAのサイクルへとサイクリックにつながっていく。この維持活動の期間でも小改善はなされるが、SDCAサイクルとPDCAサイクルは車の両輪の如く回し続けられなくてはならない。

しかしながら昨今のニュースでは、航空機や化粧品の問題、トンネル内の天井崩落の事故などSDCAサイクルによるメンテナンス活動が行われていないことによる問題点が報道機関によって指摘されている。社会からの指摘

を受けるまでもなく、企業はメンテナンス活動の重要性を十分に認識してはいるが、活動が形式的な行動として、いわゆる事務的な処理になってしまっているのではないだろうか。

品質管理業務を担当している組織構成員が、価値保証活動の重要性を認識して作業しているか、そうではないかによって結果に大きく影響する。このことは、仕事に対するモチベーションがDaniel H. Pinkのモチベーション2.0であるのか、モチベーション3.0であるのかということに関係する。モチベーション3.0とは「自分の内面から湧き出る「やる気! (ドライブ)」に基づくOS。活気ある社会や組織をつくるための新しい『やる気! (ドライブ)』の基本形」といわれているが、内発的動機付けが仕事の結果に多大な影響を与える。また、Richard Floridaは「クリエイティブ・クラスの世紀」の中で、日本はクリエイティブ・クラスの人財が多い国といっているが、本来のQCサークル活動を行っている人達は正にクリエイティブ・クラスであると考えられる。

地道なメンテナンス活動が重要であるにも関わらず、改善活動に終始してはいないだろうか。来月から始まる工業標準化推進月間、11月の品質月間を機に、維持と改善のあり方を再考する必要があるのではないだろうか。

● 私の提言 ●

理論的アプローチを大切に（証明しましょう！）

神戸大学 稲葉 太一



私は、神戸大学人間発達環境学研究科准教授の稲葉太一です。大学では、数理統計学や実験計画法の講義を担当しております。実は私は、多くの方から「証明マニア」と呼ばれているほどの、無類の証明好きです。講義を行うたびに、理解できないと言われ、講義アンケートも良かった事はありません。

私の性格として、正しいことが何なのか、はっきりさせたい気持ちが強いので、また、間違ったことを言わないために、証明を紹介しないときでも、自分では確認しながら講義

を行っているのが現状です。このような性格を、融通の利かないマイナス面であると常に感じておりました。

ただ、先日、私にとっては、私のこのような性格が、まんざらでもない、と感じる出来事がありました。管理図の限界線の計算には「管理図係数表」が用いられるのですが、この係数表には、微妙に数値の異なるものが数種類あり、試験問題に添付する際等、どの数値表を添付するのが良いか、悩ましい状況があります。そこで、正しい事を貫きたいと考え、どの数値表が望ましいのかを確認する事にしました所、多くの方々のご協力もあって、日本国内のみならず、国際的な統一に向けて動き出すことができました（詳細は、2013年10月「品質」に掲載予定）。

もちろん、私が確認したと感じて

いるだけですので、本当に正しいかどうかは分かりません。しかし、「統計数値表（1972、日本規格協会）」の精神でもありますが、数値表は値だけではなく、その根拠として精度も含めた計算式を伴っていれば、誰でもが正しいかを確認できると思います。

兎にも角にも、私のような非力な者が、このような大きな流れに関わられた事は、望外の幸せであり、ひとえに、この偏った証明好きの性格の賜物です。日頃は、この性格が災いすることが多いのですが、今回ばかりは、偏った性格で良かったと思っています。

世の中は、大変不透明であり、理論的なアプローチを行っているとして否定的な評価を受けて悩んでおられる方も多いのではと思います。企業活動においては、企業の利益を産み出すことが優先される場面も多いでしょう。そんな中であっても、是非、証明の大切さを忘れずに活動してほしいと思います。さあ皆さん、一緒に証明しませんか！

第363回 事業所見学会 レポート

キンビールの品質と 環境への取り組み

平成25年6月12日(水)、第363回事業所見学会が、キンビール（麒麟麦酒）(株)横浜工場キンビール横浜ビアビレッジ（横浜市鶴見区生麦）にて開催され、標記のテーマの下、18名が参加した。

同社は、国内外での酒類・飲料、医薬・バイオ他を手がけるキンホールディングス(株)の一事業として、「おいしさ」と「笑顔」につなぐ総合酒類・飲料事業を推進しているキリングroupの中核を担っている会社である。今回訪問した横浜工場は、同社9工場のうち、誕生の地横浜山手に一番近いところにある。

品質に関しては、キンホールディングス全体として構築された品質マネジメントシステムの一翼として「私たちは安全性の確保とお客さまの満足を何よりも優先します」を品質方針に掲げ、4つの【キン品質】である、おいしさの追求、ものづくりへのこだわり、安全のためのお約束、お客さまの安心に、誠実に、に対して諸活動

を進めておられた。また、環境については、既にエネルギーの削減25%、再資源化100%、水への取り組みについても成果を上げており、現在は、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会へ向け、良質な原料、上質な水、やさしいパッケージ（環境に配慮した容器開発）、地域環境との共生をめざし活動を進められていた。

説明の後、官能検査などの独自の検査体制、品質保証部の役割、また環境への取り組みの成果など活発な質疑・討論が行われ、参加者にとって有意義であった。

工場見学では、生産工程のうち、仕込、発酵、ろ過、缶・びん・樽詰め、印字検査、箱詰め・ケース詰めのプロセスを見学させていただいた。

見学の終わりには、できたての＜一番搾りフローズン生＞、新製品＜澄みきり＞などを堪能させていただいた。その時の参加者の顔は、顧客視点とした明確な活動の報告に続いたこともあり、素晴らしく輝いていたことを覚えている。

最後に、品質保証室長の林様、ブルワリーツアーガイドの佐藤様はじめ多くの皆さまには、業務多忙の中ご対応をいただき、この場を借りて心よりお礼申し上げます。

（寺部 哲央）

第116回中部 講演会 ルポ

『グローバル競争を見据えた、 新しい「質」へのアプローチ』

中部支部主催の標記講演会は、2013年5月28日刈谷市総合文化センターにて開催された。参加者は153名。

グローバル化、少子高齢化、価値観の多様化など、先行きに不透明さが増す中で、これからの「質」を考える場として、お二人の先生が講演された。いずれも、多くの聴講者から高い評価が得られた。

■講演1 『日本のものづくり技術神話再考 ～グローバル市場で選ばれるために～』



東京大学特任研究員、元サムソン常務 吉川 良三氏
なぜ日本の製造業が急速に競争力を失っていったのか、どうしたら再び輝きを取り戻せるのかについて、幅広いご

経験からの大変興味深いお話が伺えた。真のグローバル化とは、その国の文化に合った地域密着型ものづくりをすることであり、新興国への進出では特に重要となる。また危機意識が企業に変化をもたらすなど、日本企業復活の提言をされた。

■講演2 『「質」とは何か ～医療技術開発を例として～』

京都大学大学院 教授 富田 直秀氏



工学と医学の見地から、「モノ」は「物質の塊」であり「構造」として認識されるが、「イキモノ」は「情報の塊」であり「関係性」から認識される。「イキモノ」には空間的、時間的な多様性が存在する。「質」はこうした関係性の中に存在し、関係性の中で育つという概念を、事例を交えてご紹介された。

これからの「質」を考える上で大変示唆に富むお話であった。

古谷 健夫 (トヨタ自動車株)

第364回 事業所見学会 ルポ

米海軍横須賀基地 FLCY (横須賀艦隊補給センター)

及びSRF-JRMC (艦船修理廠及び日本地区造修統括本部)

第364回の事業所見学会は、2013年6月27日、晴天の暑い日差しの中行われた。集合時間の15分前にはほぼ全員が正門前に参集していたのは日本人らしい特性でもあるが、関心の深さを感じた。参加者は合計38人、男女比11.7:1であった。厳重な身分チェックの後、施設内に入ると、そこは正に米国になる。東京ドームの51倍の広さとのことで、会場までは専用バスで移動する。ロス郊外のような家並みである。

フジヤマという会議室で責任者の司令官のご挨拶や基地や見学部門の概要の説明を受けた。横須賀海軍施設は米海軍第7艦隊の事実上の母港であり、その管轄区域である太平洋・オセアニアの20か所以上の拠点に対し、後方支援の任務を持つ。

FLCYの業務は、各拠点で使用・消費される資材の保管と各種の輸送サービスである。倉庫を見学したが、資材はコンピュータでボックス単位に棚管理されている。

民間倉庫と比べると動きが静かであったが、艦隊や施設の部品の信頼性の高さ故だろうか。前日まで空母ジョージ・ワシントンが寄港していたそうだが、そのときはまた違っていただかもしれない。

再び、会議室に戻ってSRF-JRMCの説明を受け、バスで修理施設の車窓見学を行った。元々は江戸幕府が開いた製鉄所が造船所に代わり、旧日本軍の海軍工廠となったものを、1945年に米海軍が接收して、現在に至っている。ドック建設には有名な小栗上野介も関与していたという。途中でFLCYの燃料サービス基地やたまたま寄港していた海上自衛隊の浮上している潜水艦を眺めたりした。

今回の見学先は、継続的プロセス向上 (CPI) 計画を推進している。CPIの枠組みは我が国のTQMそのものである。90年代にゴア副大統領が品質管理を浸透すべき分野として挙げたのが、医療、国防、教育であったが、ここでは見事結実している。CPIの推進ツールは有名なりーンシックスシグマ (LSS) である。LSSの教育は定期的実施しており、見学会でもブラックベルトやグリーンベルトの有資格者にご対応戴き、貴重なお話を頂戴した。ご多忙なところ、司令官を始め多くの方々にご出席戴き、深く感謝申し上げる次第である。(益田 昭彦)

2013年5月の入会者紹介

2013年5月22日の理事会において、下記の通り正会員14名、準会員1名、職域会員2名、賛助会員1社1口の入会が承認されました。

(正会員14名) ○山下 洋史(明治大学)
○清水 義浩(東レ) ○石塚 正哲(アスモ)
○桑野 仁志(日立システムズ) ○大久保 尚武・吉村 幸一郎(積水化学工業)
○阿部 弘樹(吉野工業所) ○李 東昇(富士通) ○藤井 寛(トヨタ自動車) ○奥 猛文(職業能力開発総合大学校) ○小川 勇樹(NTN) ○佐々木 一仁(インフォコム) ○古川 静男(日本規格協会) ○山崎 幸子(YKK)

(準会員1名) ○太田 耕右(東京大学)

(職域会員2名) ○宮川 芳夫(太平洋工業) ○川嶋 真一(オムロン)

(賛助会員1社1口) ○林原

2013年6月の入会者紹介

2013年6月20日の資格審査において、下記の通り正会員12名、賛助会員1社1口の入会が承認されました。

(正会員12名) ○池田 ひとみ(プロニクス) ○鈴木 孝央(アイシン・エイ・ダブリュ) ○松野 裕(電気通信大学) ○= = = (= = = =) ○沖中 建二(戸田マテリアル) ○中村 真一郎(大日本印刷) ○小塩 千春(パナソニックプラズマディスプレイ) ○川部 佳照(リチウムエナジージャパン) ○渡邊 英一(栄研化学) ○二瓶 美智子(北日本金型工業) ○松田 英克(東京エレクトロン) ○畠山 幸太(メ

ディックス昭和)

(賛助会員1社1口) ○オージー技研

正会員：2303名

準会員：76名

職域会員：7名

賛助会員：164社217口

公共会員：21口

第43年度会費請求のお知らせ

第43年度(2013年10月1日～2014年9月30日)会費請求書を同封いたします。

郵便局自動引き落としをご利用されている方には請求書を送付いたしておりません。10月25日に引き落としとなりますので、郵便口座の残高をご確認ください。

行 事 案 内**●第367回事業所見学会(本部)**

テーマ：鉄道サービスの品質確保のための諸研究から学ぶ

日時：2013年10月8日(火)14:00～16:00

見学先：鉄道総合技術研究所(国分寺市)

定員：30名(会員優先)

参加費：会 員2,500円 非会員 3,500円

準会員1,500円 一般学生2,000円

※当日払い

申込締切：10月1日(火)

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第94回QCサロン(関西)

テーマ：京をはじめとした、クラウドコンピュータの産業への実利用方法

ゲスト：藤川泰彦氏(ヴァイナス)

日時：2013年10月23日(水)19:00～20:30

会場：中央電気倶楽部 5階513号室

参加費：1,000円(含軽食・当日払い)

申込方法：関西支部事務局までE-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第86回クオリティトーク(本部)

テーマ：事例で学ぶMTシステム

ゲスト：立林和夫氏

(元・富士ゼロックス株)

日時：2013年10月30日(水)18:00～20:30

会場：日本科学技術連盟

東高円寺ビル5階研修室

定員：30名

参加費：会員3,000円 非会員4,000円

準会員・一般学生2,000円

(含軽食・当日払い)

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAX

にてお申し込みください。

●第42回年次大会・大阪大学(本部)

日時：2013年11月15日(金)16日(土)

15日(金)14:00～16:00 事業所見学会A

ダイキン工業 滋賀製作所

14:30～16:00 事業所見学会B

理化学研究所(神戸)

18:00～20:00 年次大会懇親会

阪急ターミナルスクエア

16日(土) 9:30～10:40

通常総会/各賞授与式

10:40～11:40 会長講演

中條武志氏(中央大学)

12:40～17:30 研究発表会

参加費：

見学会(15日)

会 員2,500円 非会員4,000円

準会員1,500円 一般学生2,000円

懇親会(15日)

会 員・非会員 4,000円

準会員・一般学生2,000円

研究発表会

会 員4,000円(締切後4,500円)

非会員8,000円(締切後8,500円)

準会員2,000円・一般学生3,000円

申込締切：2013年11月6日(水)

申込方法：

同封の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。ホームページからも申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

行 事 申 込 先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本 部：TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail：apply@jsqc.org

中部支部：TEL 052-221-8318

FAX 052-203-4806

E-mail：nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail：kansai@jsqc.org

事務局からのお知らせ**日本品質管理学会監修「JSQC選書20」好評発売中****●JSQC選書20(164ページ)**

書名：情報品質－データの有効活用が企業価値を高める

著者：関口 恭毅

判 型 等：四六判、並製本

定 価：1,575円(税込) → 学会員特典価格：1,260円(税込)

申込方法：http://www.jsqc.org/ja/kanren/jsqc_sensyo.html

※書籍は請求書を同封して日本規格協会から発送いたします。

第43回通常総会開催

日本品質管理学会第43回通常総会を右記のとおり開催いたします。

日 時：平成25年11月16日(土)9:30～10:40

場 所：大阪大学 吹田キャンパス(大阪・吹田)